

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大船渡市立大船渡中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	7	19
生徒数	119	99	106	2	326	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」をはぐくむ指導実践
～個に応じた指導の工夫を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科(全教科において個に応じた指導の必要性を感じているから)

(2) 年次ごとの計画

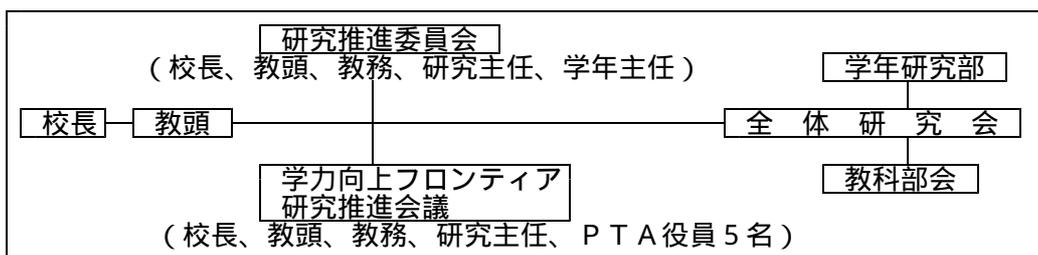
平成14年度	<p>テーマ 一人一人の実態を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。</p> <p>仮説 教科指導において、学習課題の解決のための指導形態を工夫し、発展的な学習や補充的な学習において個に応じた指導を行えば、「確かな学力」をはぐくむことができるであろう。</p> <p>研究内容 生徒の「学ぶ」意識の把握と学ぶ意識の高揚 指導形態の工夫改善 習熟度別指導・・・第1学年、第2学年数学科 少人数、TT指導・・・第2学年、第3学年社会科 コース別学習・・・数学、社会科以外の教科 評価の工夫改善 自己評価の工夫 評価規準の設定 家庭学習の取組についての指導</p> <p>研究方法 生徒の実態調査 授業研究会による授業実践(「個に応じた」指導) 標準学力検査の結果比較 単元毎の形成的評価の比較</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 評価活動の工夫とともに個に応じたきめ細かな指導の更なる充実を図り、実践を積み上げる。</p> <p>仮説 以下の実践を積み重ねれば、基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒を育成することができるであろう。</p> <p>(1) 個に応じた指導の工夫 習熟度別少人数指導 学習速度に応じた指導 興味・関心に応じた指導 学習スタイルに応じた指導</p>
--------	--

	<p>(2) 自己の学習状況に気付き、見つめ直す自己評価の工夫</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒の育成についての基本構想の立案 基本構想に基づく個に応じた指導の具体化 授業実践と実践結果の分析と考察 基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒の育成についてのまとめ 変更点・・・家庭学習指導については、各学級の担任と教科担任との連携で進めることにした。 <p>研究方法</p> <p>文献法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究及び関係する文献を参考にして、基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒の育成についての基本構想を立案する。 <p>質問紙法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問紙により個に応じた指導による生徒の変容を調査し、分析と考察を加える。 <p>観察法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の生徒の様子を観察し、個に応じた指導を取り入れた指導法による生徒の変容を調査し、分析と考察を加える。 <p>授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導を取り入れた授業を行う。 変更点・・・授業中心に研究を進めるために、研究方法についての項目を精選した。
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>個に応じたきめ細かな指導の更なる充実を図り、実践を積み上げる。</p> <p>仮説</p> <p>以下の実践を積み重ねれば、基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒を育成することができるであろう。</p> <p>(1) 個に応じた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数指導 学習速度に応じた指導 興味・関心に応じた指導 学習スタイルに応じた指導 <p>(2) 自己の学習状況に気付き、見つめ直す自己評価の工夫</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒の育成についての基本構想の見直し 基本構想に基づく個に応じた指導の具体化(教材開発) 授業実践と実践結果の分析と考察 基礎・基本を確実に身に付け、すすんで学ぼうとする生徒の育成についてのまとめ 変更点・・・家庭学習指導については、各学級の担任と教科担任との連携で進めることにした。 <p>研究方法</p> <p>文献法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究及び関係する文献を参考にして、基礎・基本を確実に身に付け、進んで学ぼうとする生徒の育成についての基本構想を見直す。 <p>質問紙法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問紙により個に応じた指導による生徒の変容を調査し、分析と考察を加える。 <p>観察法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の生徒の様子を観察し、個に応じた指導を取り入れた指導法による生徒の変容を調査し、分析と考察を加える。 <p>授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導を取り入れた授業を行う。 変更点・・・授業中心に研究を進めるために、研究方法についての項目を精選した。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 一人一人の差を大切に、「個に応じた指導」を工夫しながら教科指導を進めた結果、生徒の進んで学ぼうとする姿が見られつつある。

(アンケート結果 対象：全校生徒) 単位：%
質問1 「学習することは大切だと思いますか。」(学習に対する気持ち)

	4(+)	3(+傾向)	2(-傾向)	1(-)
平成14年 5月	38	49	10	3
平成15年 2月	38	50	10	2
平成15年 5月	46	40	9	5

質問2 「よく分かりたい・できるようになりたい」というような気持ちで授業を受けていますか。

	4(+)	3(+傾向)	2(-傾向)	1(-)
平成14年 5月	38	49	10	3
平成15年 2月	38	50	10	2
平成15年 5月	46	40	9	5

(2) 習熟度別指導は学習意欲の喚起につながった。
(アンケート結果 対象：数学・・・第1学年・第2学年) 単位：%
英語・・・第2学年・第3学年)

質問 コースに分かれての授業は学習しやすいと思いませんか。

	数 学	英 語
思う	44	43
少し思う	47	48
あまり思わない	8	5
思わない	1	4

(3) 一概に比較はできないが、少しずつではあるが学力が付いてきていると言える。

「標準学力検査結果より」 (実施：平成15年4月)

	第1学年(数学)	第2学年(数学):(英語)	第3学年(英語)
標準偏差値	52.7	46.0	48.4
		49.6	

「学習定着度状況調査より」 (実施：平成15年10月)

	第1学年(数学)	第2学年(数学):(英語)	第3学年(英語)
岩手県	7.3	6.6	6.1
本校	7.7	6.5	6.4

(単位：%)

2. 今後の課題

- (1) 生徒の実態に応じた、指導計画の見直しや指導方法の一層の工夫・改善を行う必要がある。
- (2) 個に応じた指導のための教材開発を進める必要がある。
- (3) 自己評価の資料を次の指導に生かす手立ての工夫と継続を今後も進める必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査（NRT）の実施

目的：客観的な学力定着状況のデータ収集のため実施する。

実施内容：第1学年（国語、社会、数学、理科）
第2学年（国語、社会、数学、英語、理科）
第3学年（国語、社会、数学、英語、理科）

時期：1学期上旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学校広報等を利用し普及する。

学校公開実施予定

日時：平成16年11月17日（水）

場所：本校

対象：参観希望校

目的：学力向上の取組を公開し、他からの意見を広くいただくため実施する。

学校HPにて成果を公開予定（<http://www.nnet.ne.jp/daichu>）

自主公開（実施済）

日時：平成15年11月26日（水）

成果（1）本校の研究について広く意見をいただくことができた。

（2）研究課題が明らかになった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無